

学位論文審査の結果の要旨

森山浩光

本研究は、1990年代以降急速に発展してきているにも関わらず従来社会科学的研究がほとんどなされてこなかったベトナム酪農業について、その発展過程を、南部と北部の主要酪農地域別にまとめたうえで体系的な考察を行ったものである。研究の過程では、著者自身が現地駐在員として長年培ってきた経験や人脈が生かされているだけでなく、本論文をまとめるために新たに2012年から16年3月に至る期間に8度にわたる渡越を通じて15省・市で資料を収集し、3省・市160戸程度の酪農家、乳業企業5社を訪問した聞き取り調査を行っている。こういう構想と方法の論文がまとめられたこと自体が意義深いことではあるが、それにとどまらず、当然ながらそのことを通して様々な興味深い新たな知見が得られている。特徴的な点を例示すると、①南部の調査からは、熱帯酪農の技術的・経済的特性とでも言うべきものが明らかになった。例えば、暑さ対策が必要なのは短所だが、年間を通じて採草が可能なので牧草の貯蔵・保管の仕事が必要でなく、したがって1年を通じて当日の餌を当日に収穫することができる。これは長所である。②北部では高原地帯（モクチョウ）やハノイ近郊（バビィ）にて、牛牧草研究センターや国営農場などの前面に出る形の、言わば政府主導の酪農業展開が見られたのに対して、南部のホーチミン市クチにおいては乳業企業に主導される形の展開が見られ、ここに南北の地域的対照性が検出された。③従来、ベトナムにおける一般的な農業発展は水稲作に注目しながら1980年代末からとされてきたが（農業のドイモイ）、酪農業の本格的な発展は国の酪農振興政策が始まった2000年代まで待たねばならず、ここに酪農業発展の特殊性が検出された。

以上のように、本論文が新しい問題領域に着眼しながら体系的にまとめたうえで興味深い知見をもたらしていること、論文の内容・構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文は博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

森山浩光

最終試験は、平成 29 年 7 月 1 日に東京農工大学農学部にて、学位論文の公開発表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本審査委員会は森山氏が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士（農学）の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格と判断した。